# 稲畑産業株式会社

**大阪本社**
〒542-8558 大阪市中央区南船場一丁目15番14号

**東京本社**
〒103-8448 東京都中央区日本橋本町二丁目8番2号


2026年9月発行

稲畑産業グループ　統合報告書 2026

INABATA

# 統合報告書
# 2026

# 目次


1 目次／編集方針
3 企業理念とDNA
5 社会発展への貢献と成長の歴史
7 事業ポートフォリオ変遷史
9 稲畑産業グループの今

**第1章 成長ストーリー**

11 **トップメッセージ**

17 価値創造プロセス
19 資本と強み
25 ビジネスモデル

**第2章 経営計画と進捗**

29 経営計画の全体像
31 中期経営計画「NC2026」
33 「NC2026」2年目の進捗状況
35 成長戦略を支える非財務施策
37 サステナビリティ中期計画2026の進捗状況
39 **管理部門担当役員インタビュー**

45 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

**第3章 事業戦略**

47 セグメント概況
49 各事業サマリー
・情報電子セグメント
・化学品セグメント
・生活産業セグメント
特集　食品事業の成長基盤
・合成樹脂セグメント
59 グローバルネットワーク
61 エリア別報告

**第4章 サステナビリティ**

65 サステナビリティマネジメント
69 気候変動
73 環境関連ビジネス
74 サプライチェーンマネジメント
75 化学物質規制管理
77 人権
79 人的資本
81 人的資本の強化施策
①従業員エンゲージメント
②ダイバーシティ＆インクルージョン（D&I）
③人材開発
④健康経営

**第5章 ガバナンス**

91 **社外取締役鼎談**

95 コーポレート・ガバナンス
105 役員一覧
112 リスクマネジメント
116 コンプライアンス／腐敗防止
117 情報セキュリティ／ DX推進

**データ集**

119 サステナビリティデータ
127 財務情報
135 主要連結子会社および関連会社
137 企業情報／ IR活動について／社外からの評価／株式情報




# 編集方針

本統合報告書はステークホルダーの皆さまに当社グループの価値創造に向けた事業活動や特徴的な取り組みをご理解いただくための重要なツールとして制作しています 。統合報告書2026では、2024年度にスタートした中期経営計画およびサステナビリティ中期計画の進捗をご報告するとともに、当社の強みや将来の成長戦略を、より分かりやすくお伝えすることを重視して編集しました。

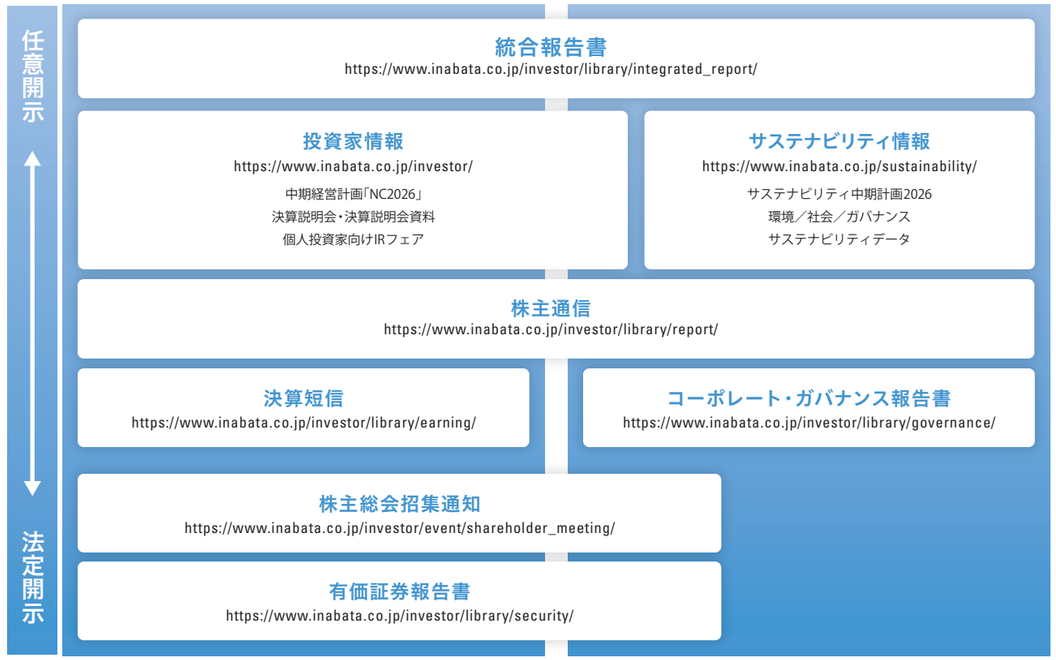
- **参考としたガイドライン**
  IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
  経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」など
- **対象期間**　2025年4月～2026年3月
  （一部に対象期間外の情報を含む）
- **対象組織**　稲畑産業株式会社および国内・海外のグループ会社

**将来の見通しに関する注意事項**
本統合報告書にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。これらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではありません。

**表紙のデザインについて**

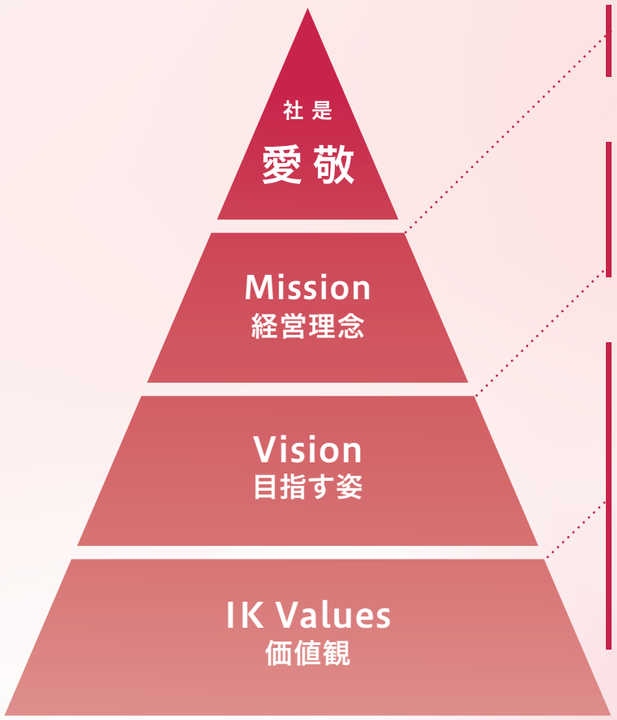
本デザインは、日本の伝統文様である市松模様が持つ「連続性」に、ハートフェルトピンクが象徴する明るく前向きな気持ちと、変化を受け入れる心を優しく後押しする想いを重ねて表現しました。
中期経営計画の最終年度となる2026年度においても、長期ビジョン「IK Vision 2030」の実現に向けて歩みを進めていく当社の姿勢を、表紙に広がる途切れのない模様に込め、事業を通じた価値創造を未来へと持続的かつシームレスにつないでいく意思を表しています。

**稲畑産業グループの情報開示体系**



# 企業理念とDNA

IK INABATA




「愛」「敬」の精神に基づき、人を尊重し、
社会の発展に貢献する

時代とともに変化する顧客と
社会のニーズに応え、グローバルに
事業を展開することにより、
価値ある存在として常に進化を続ける

| | |
|---|---|
| 倫理観 | 謙虚さと誠実さを基本とする |
| 志 | 高い理想、大きな夢、熱い心を持って常に限界に挑戦する |
| 組織風土 | 自由闊達な議論とチームワークを重んじ、社員の成長を大切にする |
| 機能 | 顧客の問題を顧客の立場から解決し、顧客のベストパートナーとなる |
| 共生 | 世界の人々と価値を共有し、そこに暮らす人々と共に発展する |

## コーポレートメッセージ

稲畑産業のコーポレートメッセージは、社是・経営理念（Mission）・Vision・IK Valuesを包含し、
社内外に一貫したイメージを伝える「旗印」の役割を果たします。
創業以来の価値観「愛」「敬」を原点に、改めて当社の価値を見つめ直し、新たな未来を見据えて、
お客様にとってどのような存在であるべきかを社員一丸となって議論し、
その提供価値と強みを端的な言葉で紡ぎ出したものです。

当たり前をつなぐ、未来を紡ぐ。
IK INABATA

お客様の日常の側に、稲畑産業はいます。

普段はもちろんのこと、不測の事態が起こっても、
「当たり前の日常」を守り抜くために。

誰よりも本気で、誰よりも近くで。
期待以上の提案力と、化学反応を起こす人間力。
そして、愛と敬の精神をもって、
お客様のビジネスの成功へ、より豊かな社会へ、
私たちは全力で動いていきます。

当たり前をつなぐ、未来を紡ぐ。
動ける商社 INABATA です。

※ 2026年3月に当社初となるコーポレートメッセージを策定。詳細についてはP22をご覧ください。

## 創業以来、稲畑産業は変わらず“人間尊重の経営”を実践し続けてきました。

“誠の心あってこそ社会の信用を得ることができる”――
これは、創業者が残した「愛」「敬」の精神を表した言葉の1つです。
創業から130年余りに及ぶ当社の歴史は、
その時代の社会利益に資する多様な事業創出とその進化の系譜であり、
現代的なサステナビリティ経営にも通じる
“人間尊重の経営”が貫かれています。

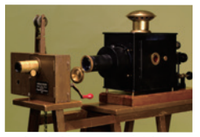
創業者
稲畑 勝太郎

### 創業ストーリー

東京遷都後、京都府が衰退するなかで
#### 京都府派遣留学生としてフランスに留学

明治維新直後の東京遷都により、それまで首都であった京都府の人口は著しく減少、経済も衰退しつつありました。そうしたなか、京都府で生まれ育った創業者の稲畑勝太郎は、京都府師範学校に通っていた1877年に、わずか15歳にして京都府派遣留学生に選ばれ、フランスへ渡航。欧州最大の繊維産業都市リヨンのヴェル・フランシュ工業予備校とラ・マルチニエール工業学校で化学工業の基礎を学び、マルナス染工場で3年間の実地研修を受けました。その後、欧州各国を視察しながらリヨン大学で染色理論や応用化学を習得しました。8年に及ぶ留学生活を支えたのは京都に活気を取り戻し、ひいては日本の近代化に貢献したいという強い使命感でした。

フランス留学時、冬季ローヌ河で絹糸を洗う創業者
（神坂雪佳筆　絵巻物より）


シネマトグラフのレプリカ

文化的側面での近代化貢献
#### 日本初の映画興行を実施、映画事業はのちの日活へと継承

1896年に勝太郎が渡仏した際、友人のオーギュスト・リュミエールと再会。映写機シネマトグラフとフィルム、興行権を買い取ると、大阪の難波にて日本初となる映画興行を実施しました。初めて見た“動く写真”に人々はびっくり仰天したと当時の新聞は伝えています。その後、のちの日本活動写真株式会社（日活）となる会社に権利を譲りました。

# 創業者の精神を受け継ぎ、変わりゆく社会と顧客のニーズに対応し、進化と成長を続けています

社会発展への貢献

## 1890年～ 世界最先端の技術を日本へ

**世界最先端の欧州の染色技術を京都府に還元、染料の国産化に尽力**

1885年にフランスから帰国した創業者勝太郎は、京都染工講習所の講師を務めたのち、京都織物会社の創設に尽力、世界最先端の染色技術の普及に努めました。1890年に稲畑産業の前身である稲畑染料店を創業、最先端の合成染料や薬品の日本への輸入を開始しました。また、第一次世界大戦の影響によって染料の輸入が途絶えるなか、1916年に設立された日本染料製造株式会社の立ち上げに参画し、染料の国産化とその普及に邁進しました。

創業時の稲畑染料店

## 1950年～ 重化学工業化・高度成長を支える

**石油化学品の需要増に応え、我が国初のポリプロピレンを輸入**

1955年頃から政府主導による重化学工業化が進み、石油化学品の需要が拡大しました。そうしたなか、当社は“万能樹脂”と呼ばれる「ポリプロピレン」にいち早く着目。1957年にイタリアの企業によって工業生産されると同年に輸入仮契約を締結し1959年に国内で初めて輸入を開始しました。以後、家電や自動車部品から繊維材料、医療用材料、建築資材用途など、幅広く使用されるこの汎用樹脂の供給は、高度成長期から現在に至るまでのものづくりを支え続けています。

## 1980年～ グローバルでの供給網を構築

**製造加工機能を海外に展開、日系メーカーの海外進出とものづくりのサプライチェーンを支える**

1970年代後半、当社は日系家電メーカーの東南アジアへの生産移管に対応し、シンガポールに最初の樹脂コンパウンド製造加工拠点を設立。日本からの輸入原料の在庫管理や需要変化への対応に苦労されていた顧客に対し、タイムリーに安定した品質の原料を供給する仕組みを構築しました。1985年のプラザ合意以降、日系メーカーのさらなる海外進出加速に伴い、タイ、マレーシア、中国、ベトナム等各地へ拠点を拡大、顧客のサプライチェーンを支えています。

## 2010年～ 脱炭素社会への貢献

**中期経営計画に「環境関連ビジネスへの注力」を掲げ、環境負荷低減商材を拡大**

120周年を迎えた2010年を現社長・稲畑勝太郎は「第四の創業※」と位置づけ、企業理念体系（MVV）を整備。事業ポートフォリオを現在の4セグメントに再編し、複合機能の強化・高度化を図ることで社会変化への対応と新たな価値の創出に取り組みました。2010年以降は中期経営計画に「環境関連ビジネスへの注力」を掲げ、脱炭素社会への貢献に向けて、再生可能エネルギーやリサイクル樹脂など、環境負荷低減商材の取り扱いを拡大させてきました。

※ 事業を開始した1890年を第一の創業、戦後から復興を目指した1945年を第二の創業、医薬事業を分離した1984年を第三の創業とし、120周年を迎えた2010年を第四の創業と位置づけている。

成長の歴史

### 社会環境

#### 1890年～ 黎明期・飛躍期

近代日本産業の幕開け～
戦後復興を経て重化学工業を中心とした
高度経済成長の時代へ。

**1890**
京都市に稲畑染料店を創業

**1908**
中国天津に支店設立

**1916**
日本染料製造設立に参画し、
合成染料の国産化に成功

**1959**
我が国初のポリプロピレンを輸入

**1973**
東証一部上場

**1976**
シンガポールに営業拠点を設立

#### 1980年～ 改革期

プラザ合意により円高が進行、
日系メーカーの海外進出が加速し、
グローバルでの供給網整備のニーズが高まる。

**1984**
主力の医薬事業を分離

**1987～**
タイ、マレーシア、フランス、インドネシア、
中国等海外拠点を拡大

**1990**
創業100周年

**1999**
情報電子・住環境・化学品・合成樹脂・食品の
5分野に事業を再編し、
事業ポートフォリオを再構築

**2000～**
ISO14001、ISO9001の認証を取得

#### 2010年～ 第四創業期※

東日本大震災をきっかけとするエネルギー供給不安、
コロナ禍などを経て、予測不可能なVUCAの時代へ。
気候変動対策と持続可能な発展が急務に。

**2010**
企業理念体系を社是「愛敬」を中心に
Mission、Vision、IK Valuesに再設定

**2010～**
環境関連ビジネスへ注力
（太陽電池関連・リサイクル樹脂・バイオマス発電等）

**2014**
海外売上高比率が5割に到達

**2019**
現在の情報電子、化学品、生活産業、合成樹脂の
4セグメントに事業を再編

**2021**
サステナビリティ委員会設置
事業企画室を設置し投資を加速
株主還元の充実（累進配当導入）

**2022**
監査等委員会設置会社へ移行

**2023**
資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けた対応を加速

**2024**
サステナビリティ中期計画2026策定

**2026**
コーポレートメッセージを策定

#### 2030年～

IK Vision 2030
売上高1兆円達成へ

# 事業ポートフォリオ変遷史

1890年に染料の輸入からはじまった当社は、時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、
あらゆる産業の土台となるケミカル製品の取り扱いを通して事業を拡大してきました。

## 1890年～ 黎明期
### 創業と成長の時代
染料・染織機械の輸入販売からスタートし、
ケミカル分野を中心に事業を展開

## 1945年～ 飛躍期
### 再構築と復興の時代
戦後の混乱のなか、
医薬品事業の強化とともに
新たな領域へ躍進

## 1984年～ 改革期
### 挑戦と試練の時代
医薬事業の分離と海外拠点の
拡大により新しい価値を創造

## 2010年～ 第四創業期※
### 進化と創造の時代
商社でありつつ、製造・物流・
ファイナンス機能でもさらなる
価値を有するベストパートナーへ

## 2030年
### IK Vision 2030へ向けて
複合機能の高度化と
新たなビジネスの創造へ

**創業者と染料**
15歳で官費留学生としてフランスに渡った創業者は、当時最先端の合成染料や染色技術を8年間学び、日本に持ち帰る

1897年 紡績機械（アルザス社）

染料

日本染料製造（株）の染料見本

香料

輸入医薬品

1920年2月 機械部門
1941年2月 廃止
1959年4月 機械金属部門
1959年、アルザス社との取引再開で、機械金属部を新設

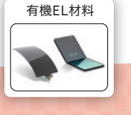
1977年4月 機械建材部門
1983年5月 機械電子材料部門
1999年4月 情報電子部門

マスクブランクス

ペリクル

液晶偏光板材料

LED封止材

有機EL材料

太陽光発電用材料

再生可能エネルギー商材

**情報電子セグメント**
- 情報電子第一本部
- 情報電子第二本部
- 情報電子第三本部

1918年6月 染料部門
1918年6月 貿易部門

樹脂・ゴム添加剤

合資会社 稲畑香料店
1926年、香料部が分離独立し、合資会社稲畑香料店として設立
1966年、稲畑香料株式会社に改称
※現在、当社との資本関係はありません

シリコーン

製紙用薬剤

プリンター染料

自動車部品向けケミカル材料

1958年1月 化学品部門
1933年1月～11月 医薬部門
1946年10月 医薬部門

医薬品原料ビジネスを引き継ぐ

**医薬事業の分離** 1984年10月
住友化学工業株式会社（現：住友化学株式会社）との共同出資により、住友製薬株式会社（現：住友ファーマ株式会社）を設立

2019年4月
化学品本部と住環境本部を再編

**化学品セグメント**
- 化学品本部

医薬品

「ボレオン錠」
1941年
週刊朝日
掲載広告

殺虫剤原料

コーンスターチ

1975年10月 食品部門

加工用海老

1975年、ダンボール用糊剤であるコーンスターチを、ビール醸造用の副原料として食品業界に販売

ブルーベリー

2012年4月
化学品部門のライフサイエンス関連と食品部門を統合

再生医療関連商材

**生活産業セグメント**
- 生活産業本部

パーティクルボード

1963年、合板向け接着剤の販売から建材事業へ

1963年10月 建材部門

樹脂接着剤

塩化ビニル

1961年10月 合成樹脂部門
1961年、化学品部門から合成樹脂部門独立。樹脂の種類の増加、加工法の進展に伴い、耐久消費財向け工業用にも市場拡大

各種樹脂（ポリプロピレン等）

樹脂コンパウンド

各種フィルム製品

**合成樹脂セグメント**
- 合成樹脂第一本部
- 合成樹脂第二本部

スポーツ資材

自動車部品向け樹脂

バイオプラスチック/リサイクル樹脂

主な組織の変遷と
主要な取り扱い商材開始時期

※ 事業を開始した1890年を第一の創業、戦後から復興を目指した1945年を第二の創業、医薬事業を分離した1984年を第三の創業とし、120周年を迎えた2010年を第四の創業と位置づけている。

# 稲畑産業グループの今（2026年3月末時点）

## 会社情報

### 創業
**135年**

### 連結従業員数
**4,719名**

### 関係会社数
**54社**　連結子会社51社
持分法適用会社3社

### 海外展開
**19カ国**
**約70拠点**

うち、特に強みのあるアジアは12カ国60拠点

## ガバナンス・サステナビリティ

### 従業員エンゲージメントサーベイ
「今の会社で働いていることに満足している」 **69%**

### 海外駐在経験率※
**39%**

※稲畑産業単体

### プロパー人材：キャリア採用人材※
**6:4**

### 独立社外取締役比率※
**58%**　取締役12名のうち7名

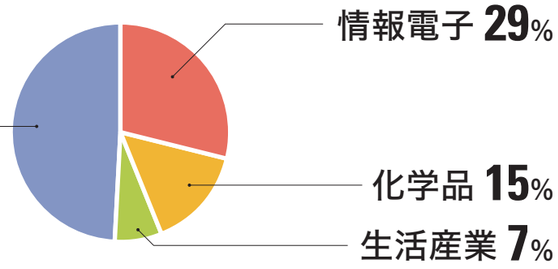
## 事業基盤と業績

### 取引先企業数
**約10,000社**

### 小ロットへの対応力
年間取引商品点数 **4万件超**

### 樹脂コンパウンド年間生産能力
**198,000MT/年**

### 事業比率（売上高）




### 売上高
**8,327億円**

### 営業利益
**261億円**　過去5年間の年平均成長率 **12%**

### 海外売上高比率
**54%**

### 自己資本比率
**47%**

### ROE
**9.3%**

### 総還元性向
**49%**